

ガバナー・「友」地区委員合同会議トピックス

7月5日東京にて、全ガバナーと「友」地区委員、それにR I理事・理事エレクトも出席され、「ロータリーの友」運営の基本事項が話し合われました。ガバナーが、直接参画される年一回の会合であり、その概要をお知らせします。

記



委員会常任委員の説明を聞く中島ガバナー。
説明を聞き終わった後、中島ガバナーは後述の通り、R J Wと「友」委員会の協調的な活動を期待して、提言と質問をいたしました。

会合は、「友」委員会常任委員3名が、各自の分掌事項を説明し、それを認容する方法で進められました。説明の要旨は次の通りであります

1. 委員会の基本的姿勢と今までの経過・・・「星野常任委員」

- * 「友」はR Iの機関紙であるとともに、ロータリアンの相互交流機能も併せ持つ。「友」誌を通じ「学び且つ交流する」ことを目的とする

- * 創刊50周年に、「友」誌を大幅に改訂した。
カラー化、ページ減少、A4 版型等である。そのねらい等は、今までに紙面等で説明してきたが、そのほかにも次の点にも配慮した。
 - イ) ガバナーの登場機会の増加
 - ロ) 新会員の紹介記事の新設ただその結果紙面の制約上、投稿記事を一部割愛させて頂くケースもでている。その背景には次の三つの要件がある。

イ) 印刷媒体と電子情報の棲み分けを考慮し、IT時代にふさわしい編集を志向しなければならない。

ロ) 年齢を配慮して視覚化を図り、字も大きくする。

ハ) コストダウンを徹底する。

- * 「友」地区委員は、「友」に係わるガバナーの唯一の代行者である。出版物を活用しつつ、地区と「友」委員会をつなぐよう努めることを申し合わせている。

2. 事業計画と予算・・・遠藤常任委員

- * 予算規模「3億数千万円」の収支について説明。
- * 本年度事業は、例年通りの出版物を作成するが、会員減少とともに販売量が減少傾向にあり、積極的な購入をお願いしたい。

3. 「友」編集計画・・・小林常任委員

- * 本年度の編集計画について説明。・・・(すでに、第一回報告「編集トピックス」で報告した内容と同じ。なおこの計画の中で、「100周年記念社会事業の活動事例」紹介テーマが企画されており、2640地区もこの計画に積極的に参画していく予定である)

4. 提言・質問と応答

- * 2640地区・中島パストガバナーより、次の通り提言及び質問が行われた。
「ロータリーの公式情報は、ロータリーの友とRJWの二つの機能で伝達される。RIでは、ジエネラル・マネージャーのもとで「印刷」「ウェブ」両機能が調和的に運営されている。日本でもその方向が望ましい。
RJWもここ数年来懸命の努力を重ねて充実を図ってきた。本年資金運用面も含め、両機能は今後どのように進められるのか？」
これに対し、中山前委員長及び神崎副委員長より、次の通り回答された。
「渡辺委員長が折あしく病床のため、検討が余り進捗していない。ご快復後検討を進め、その経過は逐次ガバナーに報告する」

以 上